

玉川野毛町公園 拡張事業の ご紹介



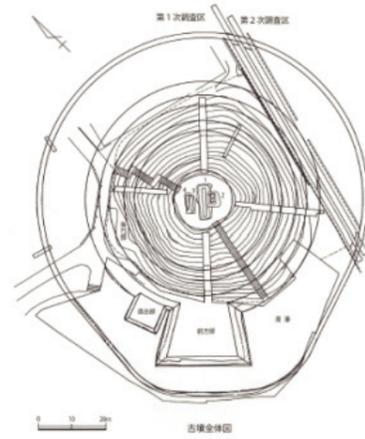
世田谷区では、玉川野毛町公園の既開園区域の約3.8haに加え、国土交通省等々力宿舎跡地の一部約2.8haを拡張する玉川野毛町公園拡張事業計画を進めています。

これまで、玉川野毛町公園の公園拡張の基本的な考え方として「みどりとみずをつなぐネットワークづくり」、
「歴史・文化を感じられる空間づくり」、
「安全・安心の公園づくり」の3つの柱を掲げており、公園利用者や住民、事業者と対話をしながら公園計画づくりを進めていくこととしています。



はじめに

等々力溪谷



帆立貝型古墳

玉川野毛町公園と野毛大塚古墳



歴史・文化

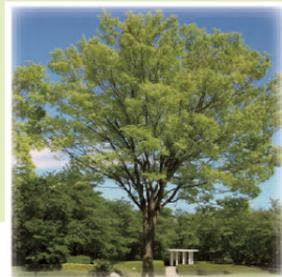
- ・玉川野毛町公園内には、帆立貝型の古墳としては、全国でも最大級の規模である野毛大塚古墳が位置し、国分寺崖線周辺には荏原台古墳群がみられます。
- ・野毛大塚古墳の出土品は、平成28年に国の重要文化財に指定されています。

地形・自然環境

- ・計画地は、世田谷区を形成する特徴的な地形である国分寺崖線の崖上に位置しています。
- ・国分寺崖線のみどりをはじめ、等々力溪谷や多摩川などみどりとみずのネットワークが形成されています。



荏原台古墳群



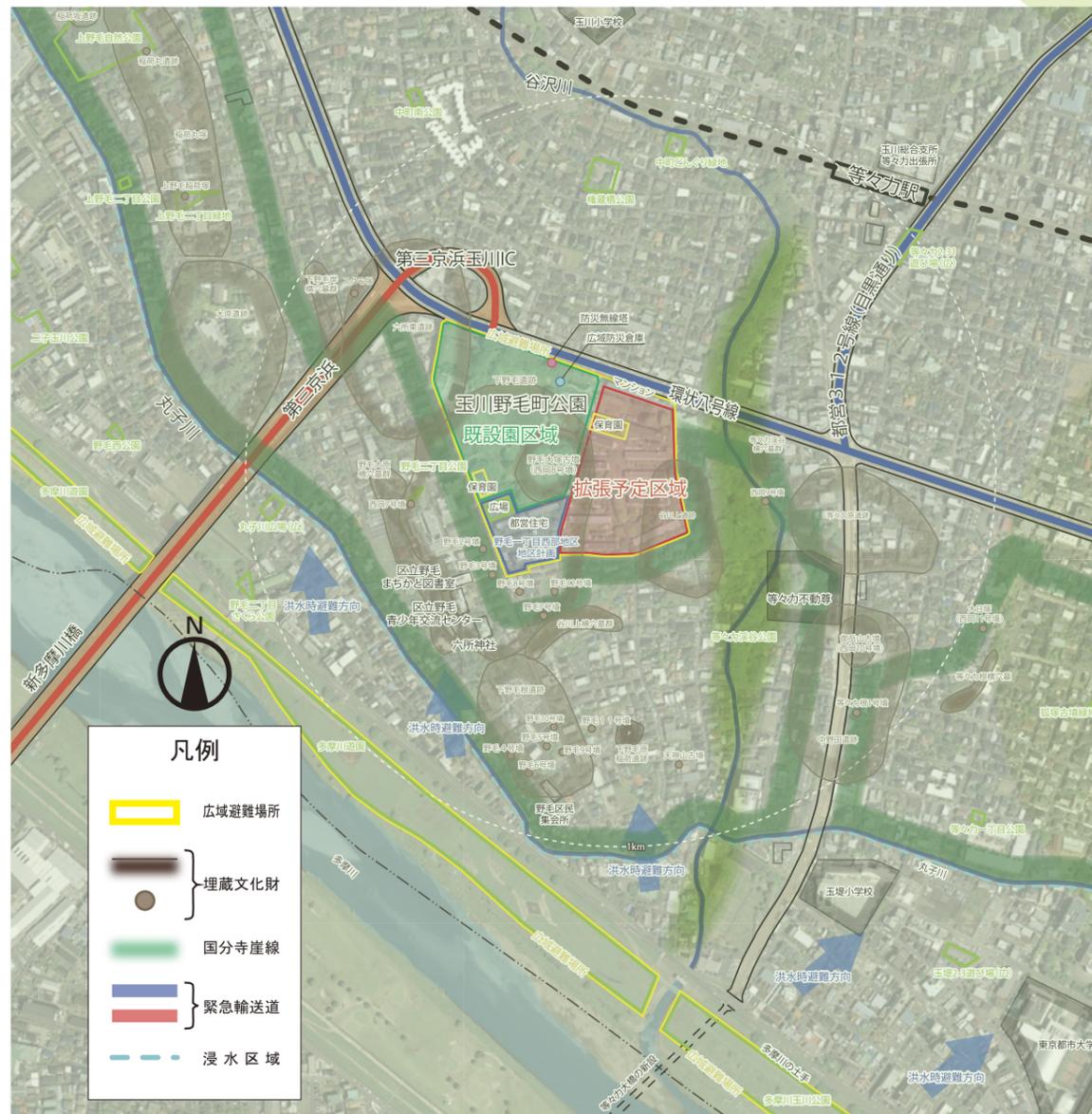
ケヤキ



タチツボスミレ



生きものネットワークのイメージ



防災上の位置づけ

- ・玉川野毛町公園は広域避難所に指定されており、環状八号線、目黒通り、第三京浜は、緊急輸送道路に指定されています。
- ・オープンスペースの確保により、災害時の避難場所、支援拠点となります。また、樹木や樹林地のみどりは雨水の貯留、浸透機能があるため、局所的な豪雨対策などに寄与します。

既開園区域

拡張区域

2019.5月撮影



<多目的広場>



<駐車場>



<デイキャンプコーナー>



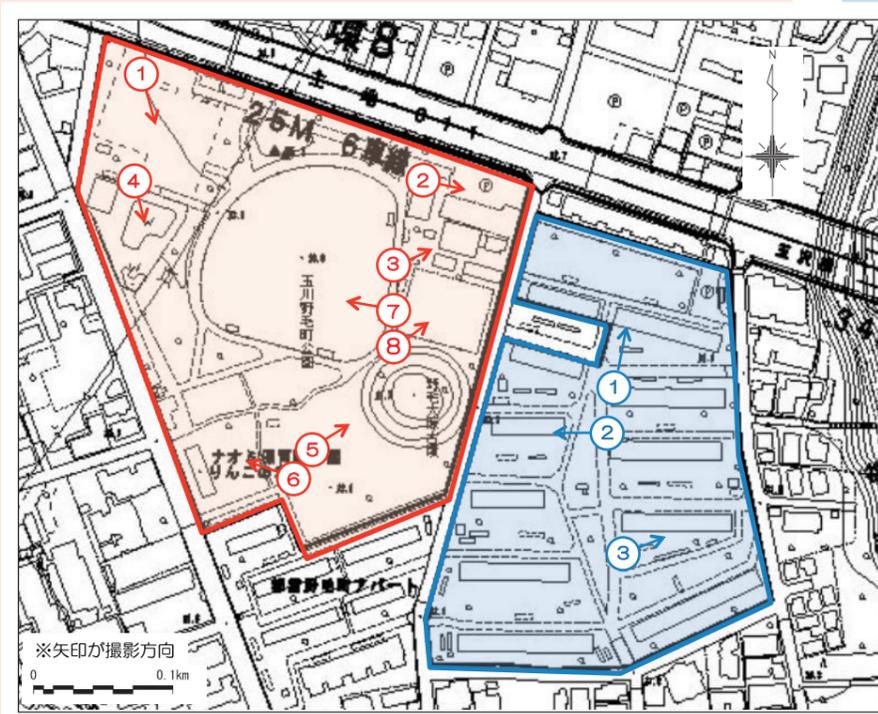
1



<屋外プール>



<野毛大塚古墳>



2



<こども広場>



<野球場>



<テニスコート>



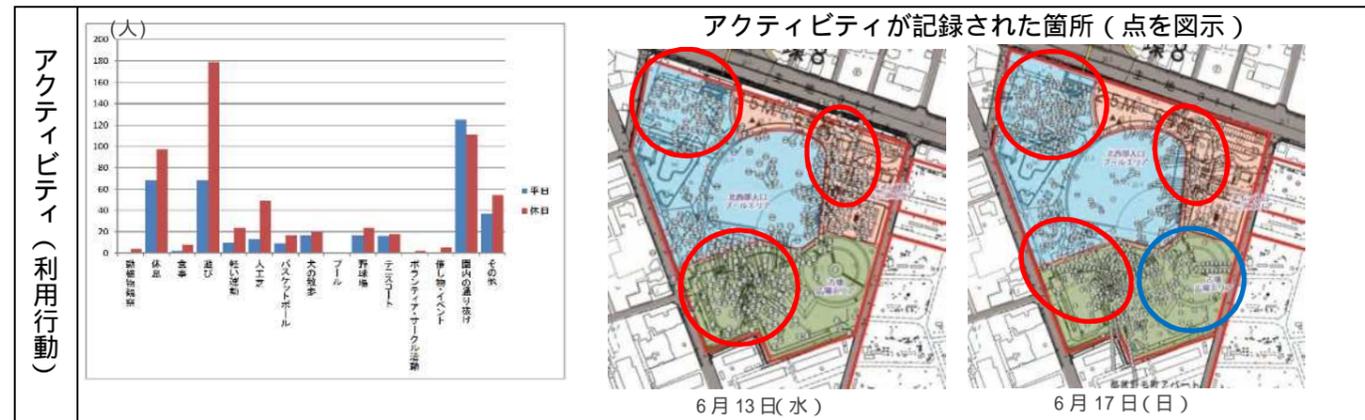
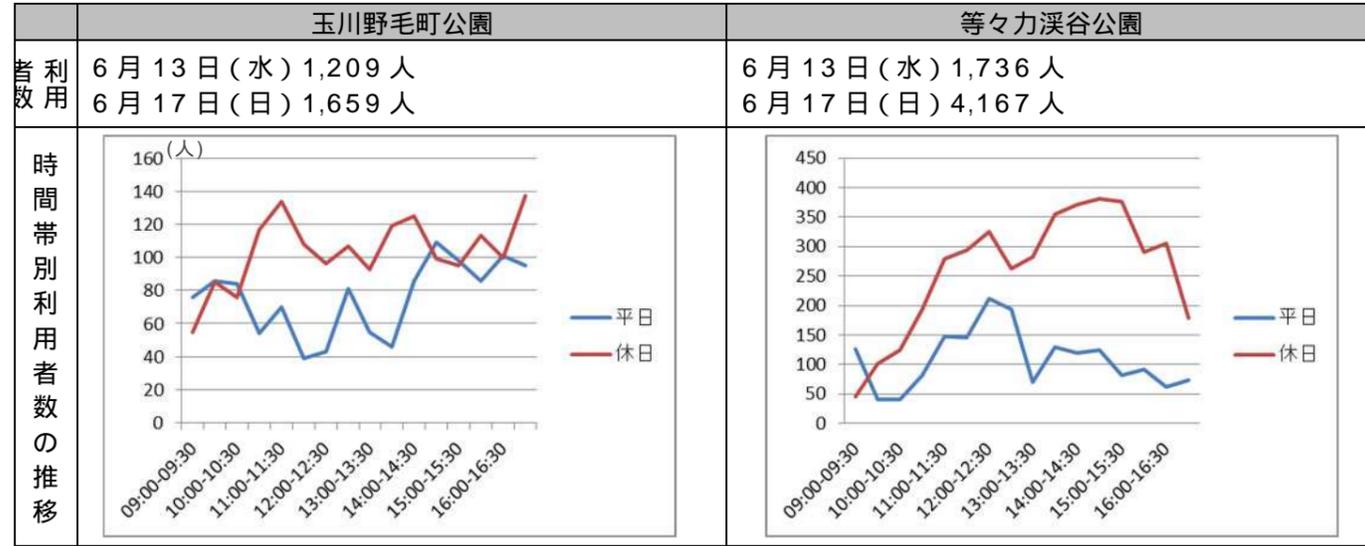
3

玉川野毛町公園の利用実態調査、アンケート調査の結果概要について

1. 調査概要

項目	目的	調査対象	日時
利用実態調査	利用者数の実態を把握する	玉川野毛町公園、等々力溪谷公園の利用者	6月13日(水)9:30～16:00 6月17日(日)9:30～16:00
	利用行動の実態を把握する	玉川野毛町公園の利用者	
利用者アンケート調査	利用者の公園利用に対する要望等を把握する	拡張区域における現場見学会参加者 公園利用者	7月1日(日)9:30～16:00 7月4日(水)9:30～16:00

2. 利用者数調査等の結果



利用者数：等々力溪谷公園は玉川野毛町公園の1.5倍以上(平日：約1.5倍、休日：約2.5倍)来訪している。本調査の結果、等々力溪谷公園の年間利用者数(平成29年度)は、約43万人と推計される。
 アクティビティ別利用者数：平日、休日ともに「園内の通り抜け」「遊び」「休息」が多い。そのうち、平日では「園内の通り抜け」、休日では「遊び」が最も多い。また、休日になると野毛大塚古墳を訪れる人が増えている。
 アクティビティが記録された箇所をみると、「多目的広場」、「子ども広場(遊具)」、「デイキャンプ場付近のベンチ」で、平日、休日問わず多くの利用が確認されている。休日になると、野毛大塚古墳の利用が増える。

3. 現地見学会での意見(自由意見)

	平日	休日
自由意見	公園の拡張工事計画について期待すること、お気づきの点等をご自由にお書きください ・自然を感じられる公園づくり：約16件 ・子供が安心して遊べる公園づくり：約5件	・自然を感じられる公園づくり：約35件 ・子供が安心して遊べる公園づくり：約10件 ・カフェの設置：約5件 ・コンビニの設置：約5件

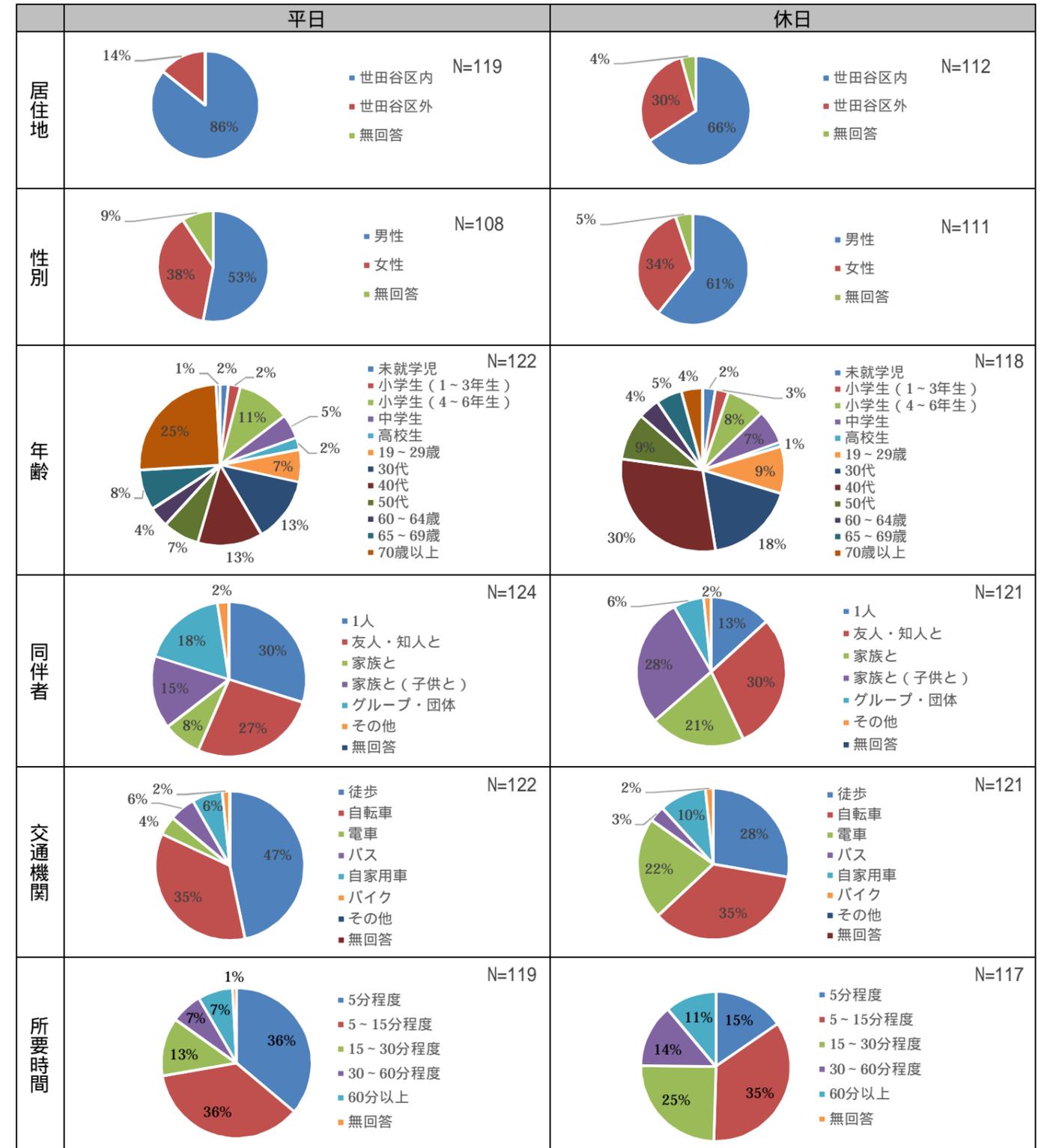
「自然を感じられる公園づくり」や「子供が安心して遊べる公園づくり」に関する意見が多い。休日には、カフェやコンビニ等便益施設の要望があがっている。

4. アンケート調査の結果

4-1 利用者特性

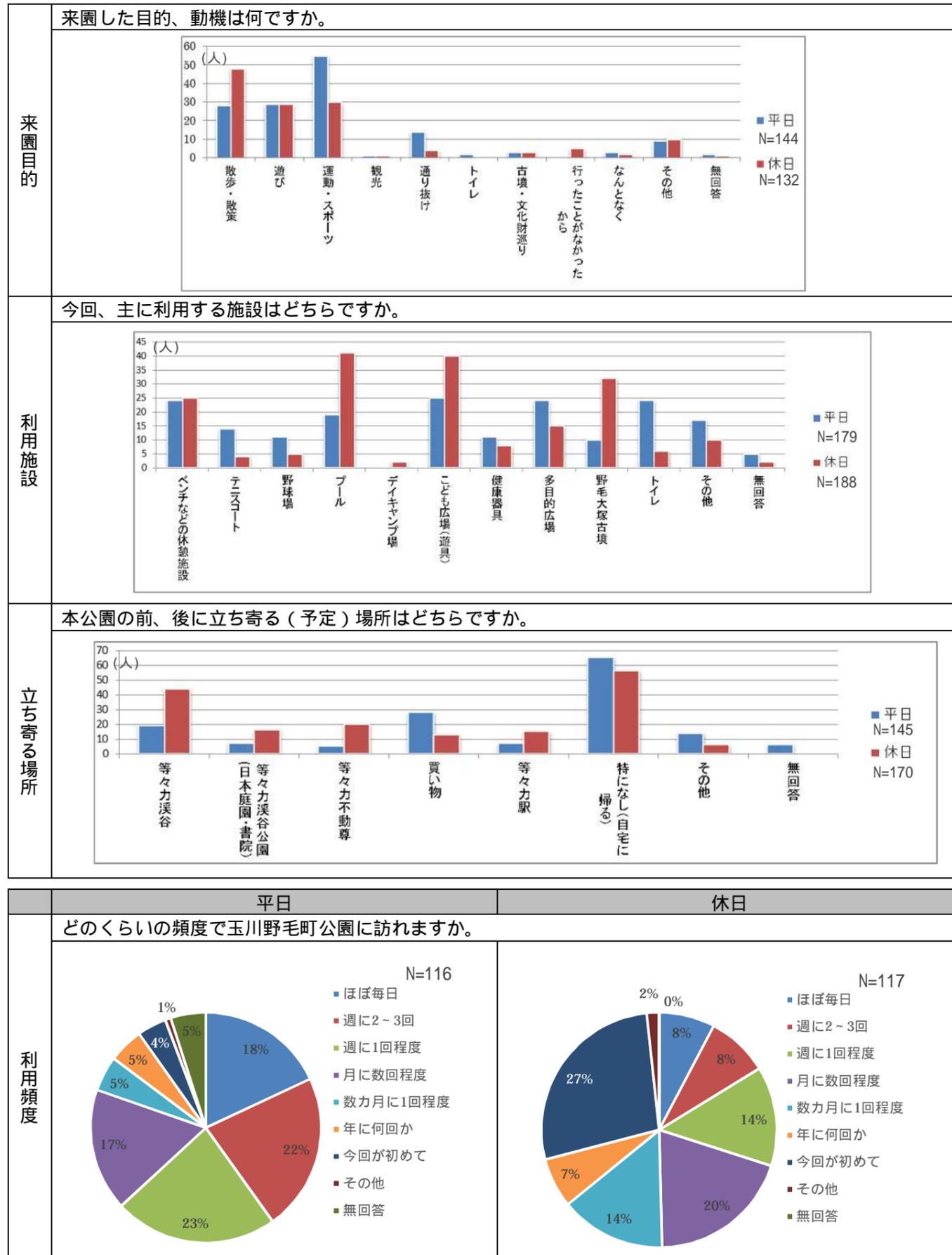
N = 回答総数

アンケート回答者数(平日(7月4日(水))：119人、休日(7月1日(日))：117人)



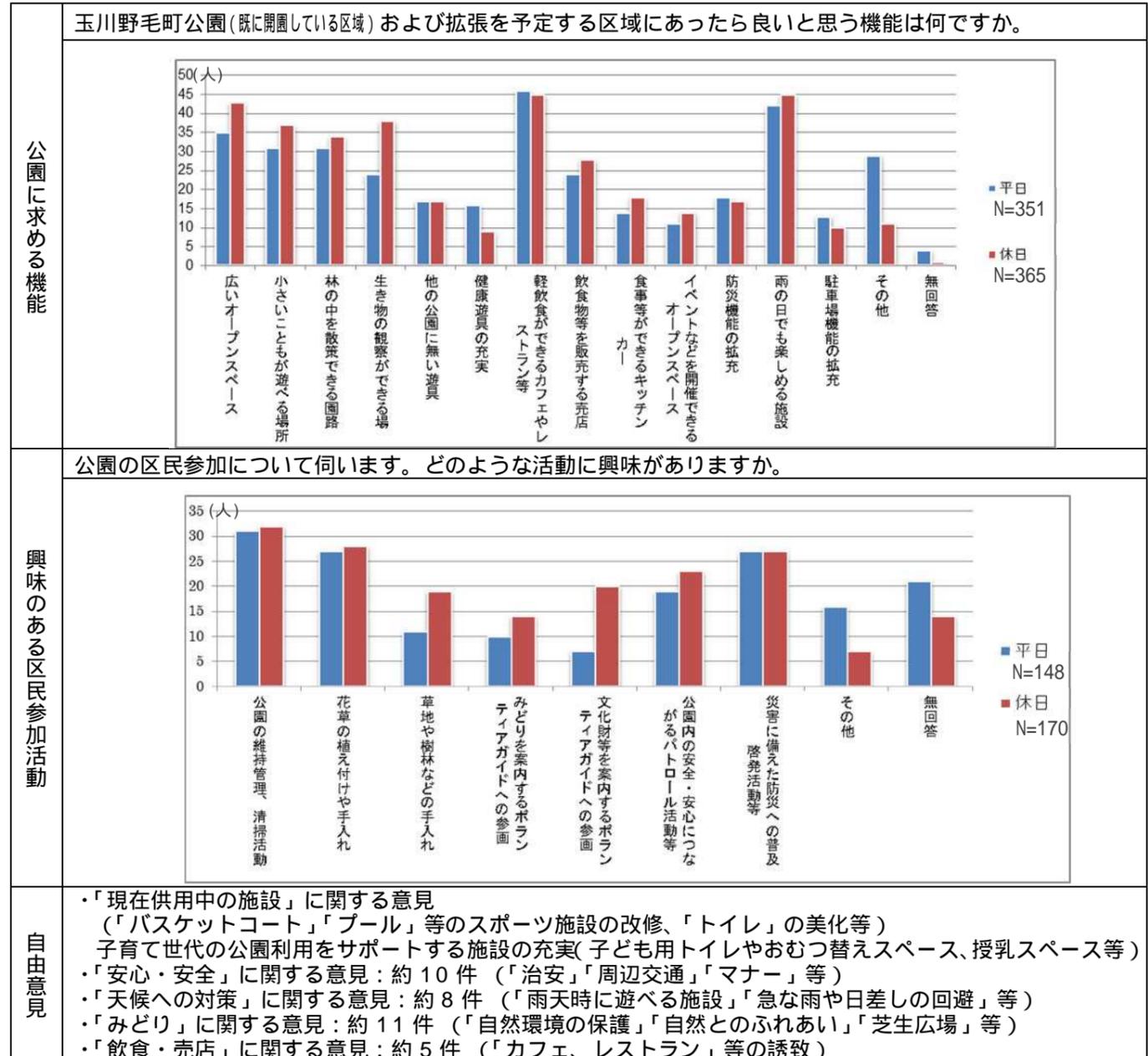
居住地：平日、休日ともに世田谷区内からの利用者が多い。休日には、区外の利用者が倍増する。
 性別：平日、休日ともに男性の利用者が多い。
 年齢：平日は70代、40代、30代の順に、休日は40代、30代、50代、19～29代の順に多い。
 同伴者：平日は「1人」「友人・知人と」の順に、休日は「友人・知人と」「家族と(子供と)」の順に多い。年齢、同伴者の結果より休日は親子連れが多いことがうかがえる。
 交通機関：平日は「徒歩」「自転車」、休日は「徒歩」「自転車」「電車」が多い。
 所要時間：平日は15分以内の利用者が72%を占めるが、休日は15分以上の利用者が50%に増加する。

4 - 2 現在の利用状況



来園目的：平日、休日ともに「運動・スポーツ」「散歩・散策」「遊び」が多い。そのうち、平日では「運動・スポーツ」、休日では「散歩・散策」が最も多い。
 利用施設：平日は「子ども広場(遊具)」「ベンチなどの休憩施設」「多目的広場」「トイレ」が多く、休日は「プール」「子ども広場」「野毛大塚古墳」が多い。
 立ち寄る場所：「特になし(自宅に帰る)」を除くと、平日は「買い物」「等々力溪谷」が多く、休日は「等々力溪谷」「等々力不動尊」が多い。(「等々力溪谷」の割合：平日約16%、休日約37%)
 利用頻度：平日は「ほぼ毎日」~「週に1回程度」などの高い利用頻度が約70%を占める一方で、休日は「数ヶ月に1回程度」~「今回が初めて」などの低い利用頻度が約半数を占める。

4 - 3 公園に求める機能等



公園に求める機能：平日、休日ともに「軽飲食ができるカフェやレストラン」「雨の日でも楽しめる施設」「広いオープンスペース」が多い。
 興味のある区民参加活動：平日、休日ともに「公園の維持管理、清掃活動」「草花の植え付けや手入れ」「災害に備えた防災への普及啓発活動等」が多い。
 「文化財等を案内するボランティアガイドへの参画」については、平日では低い回答であったが休日では大きく増加する傾向が見られる。
 ○自由意見：「みどり」「安心・安全」「天候への対策」に関する意見が多い。

背景と目的

世田谷区立玉川野毛町公園は、昭和31年に都立公園として開園し昭和40年に区へ移管されて以来、長年にわたり、みどりのオープンスペース及びレクリエーションの場として地域住民に親しまれてきた。このたび、隣接する国土交通省等々力宿舎跡地の一部（約2.8ヘクタール）を世田谷区立玉川野毛町公園拡張用地として整備する計画を進めている。公園整備の基本的な考え方や視点、進め方等を示した「世田谷区立玉川野毛町公園拡張事業の基本的な考え方について」（平成30年5月）を踏まえ、基本計画の策定にあたり骨子をとりまとめる。

「世田谷区立玉川野毛町公園拡張事業の基本的な考え方について」

【公園拡張のテーマ】

「世田谷の先人たちを育んだ 豊かなみどり、歴史文化を知り、育み、次世代へつなぐ場」

【公園拡張の基本的な考え方】

みどりとみずのネットワークづくり

- ・国分寺崖線のみどり、等々力溪谷の23区でも貴重で豊かな自然を活かし、生きものの拠点となり、都市生活における貴重な自然体験の場を提供する。
- ・草地から多様な樹林構造もったみどりを創出し、豊かな生態系を創出し、生きもののネットワークの強化をする。

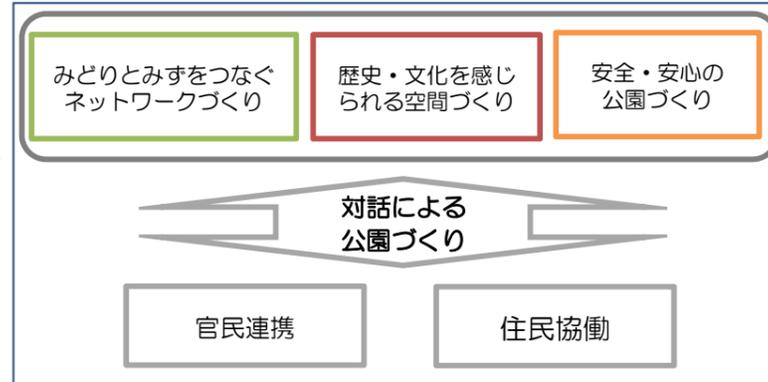
歴史・文化を感じられる空間づくり

- ・有史以来の世田谷の歴史を学び、次の時代に引き継ぎ、文化を育てる場をつくる。
- ・古墳等の文化財を通して、多摩川や国分寺崖線等の自然環境と歴史文化を守り伝える場をつくる。

安全・安心の公園づくり

- ・地域の動線を継承し、にぎわいの場をつくり、子どもからお年寄りまで、安心して訪れることができる楽しい場をつくる。
- ・地域の防災活動拠点、広域避難場所、緊急輸送道路（環状八号線）を踏まえた災害対応拠点をつくる。

公園拡張計画の進め方（イメージ）



基本計画（骨子案）

（仮）「世田谷の先人たちを育んだ豊かなみどり、歴史文化を知り、育み、次世代へつなぐ場」
⇒世田谷のみどり（生物多様性の拠点）と歴史・文化の拠点

公園計画上の視点

拡張区域は、既存のみどり資源をいかし、多目的に利用できるオープンスペースとみどりをいかした場づくりを行う。

■みどりとみずのネットワークづくり

- ・みどりと歴史文化の拠点として、拠点となる施設とフィールドの整備検討を行う。
- ・受け継いだ既存の樹木をいかし、武蔵野のみどりをいかしたみどりの拠点を形成する。
- ・生物多様性に配慮した樹林地の育成や維持管理を住民参加で行い、みどりや生きものと触れ合える自然体験の場（フィールド）づくりを通じて生きもの拠点づくりを行う。

■歴史・文化を感じられる空間づくり

- ・「本物」の古墳に立ち、触れ、歴史を体感できる空間づくりを行う。
- ・野毛大塚古墳の今現在、見ることのできない遺構（周濠等）を意識した公園づくりを行う。

■安全・安心の公園づくり

- ・にぎわいや防災、日常利用と多目的に使用できるオープンスペースを確保する。
- ・防災倉庫の設置や地域の防災訓練を行う空間を確保する。
- ・災害時やイベント等の利用を想定し、大型車両の乗り入れが可能な施設整備を行う。
- ・住宅と接する公園境界部は、公園のみどりやオープンスペースをいかした空間づくりを行い、住環境の向上と安全安心な歩行空間を確保する。

既開園区域及び拡張区域の公園利用もしくは、公園滞在の質を向上するための便益施設等の整備検討を行う。

- ・等々力溪谷公園等の地域観光利用者の取り込みを想定した公園づくりを行う。
- ・既開園区域（第二種住居地域、第一種中高層住居地域）、拡張区域（第一種低層住居専用地域）の用途地域を踏まえた公園づくりを行うものとし、既開園区域と拡張区域とで機能分担を行う。
- ・建物施設の設置については、世田谷区公共施設等総合管理計画を踏まえ、既開園区域内の施設も含めた統廃合など、効率化を検討する。
- ・便益施設等の設置にあたっては、公園利用や地域性に配慮した施設の導入について官民連携を踏まえて検討する。

主なゾーニングと求められる公園機能

エントランスゾーン

既開園区域と一体感があり、新たな公園の顔として、気軽に立ち寄れる開かれたエントランスの整備
【導入を検討する施設】 駐車場、駐輪場、案内サイン、トイレ、便益施設等

拠点となる施設

世田谷区のみどり（生物多様性の拠点）と歴史・文化の拠点及び、公園利用や地域防災の拠点としての機能、現地の情報発信や普及啓発、体験や学習の場、住民協働等の活動に必要な機能を複合化した施設
等々力溪谷公園等の地域観光利用者の取り込みも想定した休憩・休息の場や便益機能を有する施設
【導入を検討する施設】 ビジターセンター（案内、展示、学習、活動拠点等）機能、雨の日でも楽しめる施設、トイレ、便益施設、防災倉庫等

古墳広場ゾーン

エントランス、みどり、野毛大塚古墳との連続性や遺構（周濠等）をいかし、公園の中央に位置する多目的に使えるオープンスペースの整備
【導入を検討する施設】 芝生広場、緑陰、便益施設、多目的利用に対応したインフラ整備（水道、電気、wi-fi）等

みどりゾーン

世田谷区のみどり（生物多様性）の拠点とするため、既存の樹木と在来植生をいかした武蔵野の雑木林により「生きもの拠点」となるフィールドの整備
【導入検討する施設】 既存樹木を活用した樹林、自然観察場、体験施設、休憩施設、便益施設等

公園と住宅地との敷地境界部

公園のみどりをいかしつつ、隣接する住宅のプライバシーに配慮した、安全・安心な公園境界部の整備
【導入検討する施設】 セットバック歩道、緩衝緑地、照明等

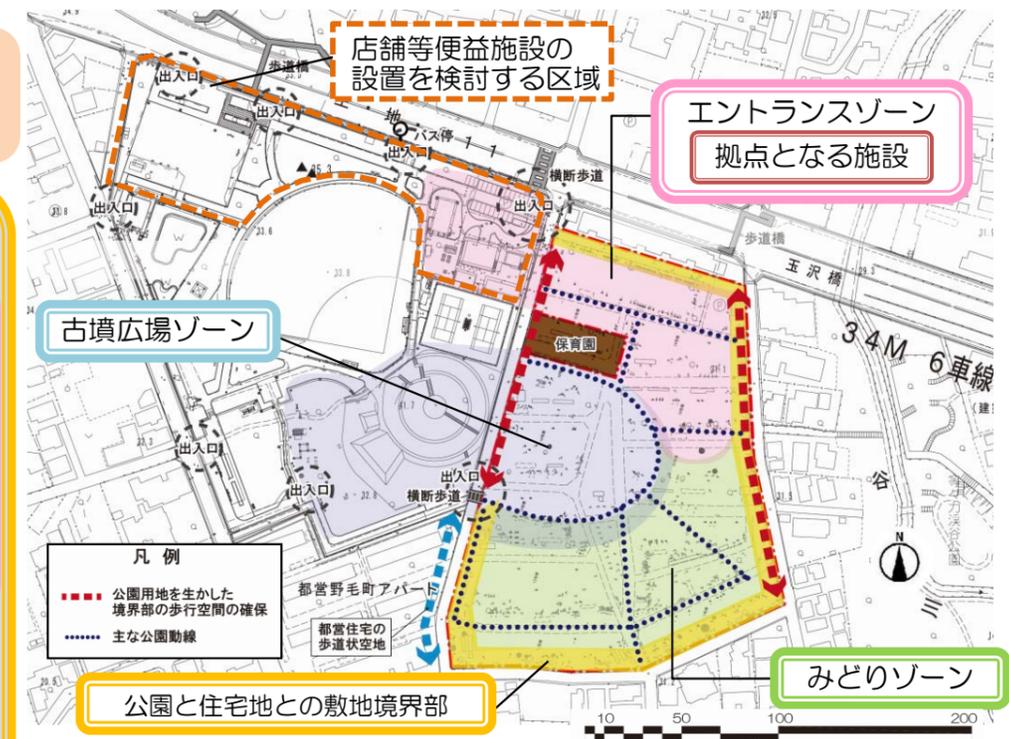
■拡張事業計画の対象範囲

玉川野毛町公園の既存開園区域、拡張区域、等々力溪谷公園を一つの拠点として捉え、計画を進める。



■拡張区域 ゾーニングと動線

環状八号線による横断箇所の限定要因等を踏まえ、既開園区域の出入口や周辺道路、等々力溪谷公園等からのアクセスに配慮したゾーニングと動線計画を行う。



■スケジュール（予定）

	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3~R4	R5(2023)
拡張区域	基本計画	基本計画 基本設計	実施設計	起工・工事	工事・開園
既開園区域	対話を踏まえ既開園区域の改修計画の検討・実施				
官民連携	対話と事業手法の検討		事業者の募集、選定、事業実現に向けた作業		

拡張計画の基本的な考えを踏まえ、公園利用者や住民、民間事業者と公園計画について対話（意向や事業提案等）を進め、住民意向を踏まえた民間活力の導入を検討し、公園サービスの向上を図る。

野毛大塚古墳について



2019.9.22 文化財係

国分寺崖線と野毛古墳群



多摩川台公園

天慶塚

八幡塚

狐塚

御岳山

等々力溪谷

野毛大塚

環八

野毛2号墳

第三京浜道路

野毛大塚古墳



東京都指定史跡



第3主体部

This image shows an archaeological excavation of a large, roughly circular structure. The interior is divided into several distinct sections. A central vertical rectangular pit is labeled '第1主体部'. To its right is a more complex structure with a cylindrical component, labeled '第2主体部'. To the left of the central pit is another rectangular pit, labeled '第4主体部'. At the top of the structure is a smaller rectangular pit, labeled '第3主体部'. The ground is dark brown soil, and some white stones are scattered around the perimeter of the excavation. A white label with black text is placed over each section to identify it.

第2主体部

第4主体部

第1主体部



鉄製甲冑(復元品)



多量の鉄製武器

野毛大塚古墳の出土品



石製模造品



埴輪

国の重要文化財